

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第76回 2005年、*Transformation*の実践の年・宣言！

ここ数年、目まぐるしいほどの「変化」(*change*)に振り回され、ややもすれば、そのテンポについていけないほどの状況である。2005年、新たな年を迎えた今、どうやらその情勢は、変わらず続きそうな気配である。

その都度、変化への対応を...と、声を大にして言ってきたつもりだが、自分自身とその周辺を見ると、どれほどの対応ができたのか、はなはだ疑問が残る。

変化への対応がうまく実践に結びつかないのは、どうやら、その認識が間違っていたような気がする。「変化」(*change*)とは、変わるという事態の変化に過ぎず、つまり、物質的、形而上的の交換、入れ替え、変わる様を表しているだけの現象に過ぎない、ということに気がついた。従って、問題意識の高い人にとっては、変化と共に対応する「動き」が伴うものであるが、そうでない人にとっては、単なる無意味な「お題目」になってしまっている。それを一色単に評価している限り、効果に結びつかないのは、至極当然の帰結であった。

2005年(平成17年)は、「変容」(*transformation*)である。物質的变化の現象ではなく、命あるものの変質、変形を意味し、むしろ大切なことは、「変化」と「変容」を同時に実施し、意識そのものの変革を具現化していくことであろう。

そのためには、パワーレスの人に何を言ってもダメ!...という非情な見極めを実践し、これを「公平・公正」のスタンダードに設定する必然がある。

2005年(平成17年)は、そのためのあらゆる機構改革、情報公開を率先し、全ての阻害要因を取り除いていくことを、我、IKGの新年度戦略のベーシックテーマとし、パワーのある人から *transformation* を実践していくことを、宣言する。

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、この稚拙な、気まぐれコラムにお付き合い頂き、誠に有難うございました。今年も週1本のペースで、相変わらず気ままに、いかにもお気軽に、投稿させて頂くつもりです。どうか、懲りずに、辛抱強いお付き合いを頂ければ、幸いと存じます。たまには、ご意見やお叱りも頂戴したいと思います。また一年間、よろしく申し上げます。

IKG代表
飯島 賢二